

請願第1号 給付型奨学金制度改善に関する請願書

賛成討論

【加藤亮輔議員】

30年度からスタートする政府案の給付型奨学金利用者予定数は、1学年2万人のため、学生の約2%しか利用できない。また、対象者は、住民税の非課税世帯、成績基準などをクリアし、学校推薦で選ばれた学生等の厳しい基準がある。もっと多くの学生が利用できるように改善すべき。

反対討論

【津滝俊幸議員】

まだ始まったばかりの制度で、多くの方に認知されていない。平成29年度から先行実施の予定で本格的には30年度から本格実施と聞いている。今後の普及に期待するところだが、一定所得者へ対象を広げていくことにより、国の財政負担は約200億円必要と言われている。財源確保の問題や、更には、長野県においては既に同様の制度があることから反対。

賛成討論

【伊藤まゆみ議員】

委員会では負担がかかるという理由で不採択。地方議員が住民の声を国に届けるのに、国の財政状況を忖度する必要は全くない。安倍政権になり防衛費は減少傾向から4年連続の増加で2016年度は5兆円を突破。財源不足を理由にした議論は成り立たない。

日本はこれからポスト経済成長、少子高齢化時代の成熟社会に入る。ハコモノから人への投資にシフトすべき。子供達への投資は、成熟期を豊かにするために必要不可欠で大人の責務でもある。

発議第1号 給付型奨学金

質疑

【横田孝穂議員】

この件の意見書の通告はいつの提出であったのか。

太田正治議員は、請願を不採択だが、意見書提出は矛盾していないか。

事前の全員協議会では、太田議員は発言をされていない。本会議で突然動議を提出したことは、議会の申し合わせを守っていないのでは。

答弁

【太田正治議員】

動議は、今日でないと提出できないという形になっている。意見を述べないことについては、いろいろと勉強してこういう形にした。速やかな検証をしていただくという形で意見書を出した。

質疑

【横田孝穂議員】

議会申し合わせ事項についての公定力をどう理解しているか。不採択とした3月17日の全員協議会では意見書提出不要との判断であったが、動議をして意見書提出に至った背景は。

答弁

【太田正治議員】

批判しているという部分ではない。今まで実施している部分もあるので、その部分について、検証していただくという形で意見書を出している。

質疑

【加藤亮輔議員】

内容的に原文の請願書と、さほど変わらないように見受けられるが、違いは。

答弁

【太田正治議員】

今、現在出されている部分もあるが、その分については速やかな内容を検証してもらい、柔軟な対応をしていただきたいという形である。

賛成討論

【加藤亮輔議員】

この意見書は、今の大学、学生たちが困っている状態を少しでも改善、充実して欲しいとある。授業料も、世界各国は大体、授業料は無料が主流であるのに、日本の場合は国立大学の授業料が私立大学並みに値上げされてきている。その軽減を図るとあるので賛成。